

分科会 2

精神障がいを持つ親への育児支援と育てられた子どもを支える支援

横山恵子（埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科）
蔭山正子（東京大学大学院医学系研究科地域看護学分野）
小野加津子（多摩在宅支援センター円）
岡田久実子（さいたま市精神障害者家族会連絡会）
千葉あき（子どもの立場の方）
子育て中の当事者の方

この分科会では、子育て中の精神障がいを持つ当事者の方、精神障がいを持つ親に育てられた子どもの立場の方、祖父母の立場で子育てを支援している方の体験、さらに、地域で子育て支援に関わる支援者の方に、現状や課題をお話いただき、参加者とともに、精神障がいを持つ方への育児支援を考えました。

分科会には約 90 名の参加がありました。参加者は、精神障がいを持つ方、子育て中の方、子どもの立場の方、親御さんなどのご家族、支援者など様々で、それぞれの立場から活発な意見交換がありました。

●発表の内容

- ①地域母子保健システムとメンタルヘルス上の困難を抱える親への支援（蔭山）：行政保健師の立場から育児支援の現状、虐待予防だけでなく、長期的な視点での育児支援の重要性を話されました。
- ②精神疾患を持つ母親とその子どもの支援（小野）：在宅支援センターでの PCG 事業を通じた子育て支援の実践、親だけ、子どもだけでなく世帯としての育児支援の必要性を話されました。
- ③精神障がいを持つ子育て中の親の体験：母親の立場から、地域で孤立していた苦しさ、PCG 事業に参加して、徐々に子どもとの関係を取り戻している様子を話されました。
- ④精神障がいを持つ人の子育て～長女の体験から（岡田）：当事者の母親として、結婚、出産、子育てとともに歩んで来た道のり、娘さんから子どもへの「生まれてきてくれて、ありがとう」のメッセージも含めてお話しいただきました。
- ⑤精神障がいを持つ親に育てられた子どもの体験（千葉）：子ども時代から自身が母親となった現在までの体験を通して、孤立している子どもに関心を向けてほしいという願いが話されました。

●グループワーク・まとめ

5～6 人で、地域に必要な育児支援など、自たちに何ができるかを話し合っていました。子育て中の当事者の方からは励まされたという意見、子育て中の当事者の方、子どもの立場の体験が聞けて良かったという意見、支援者からは、精神障がいを持つ方の育児支援とともに、子どもにも関心を持って支援していく必要性を痛感したとの意見がありました。

≪横山恵子（埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科）≫